

令和8年度 大阪府立障がい者自立センター 地域連携推進会議 議事録

・日 時 令和8年 8 月28日(金曜日)午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

・場 所 大阪府立障がい者自立センター 大会議室

・出席者:

地域活動協議会副会長 小学校教頭 利用者 利用者家族

当センター所長・次長・参事(医師)・課長・支援員 2 名 計 10名

1. 開会・挨拶

障がい者自立センター所長より本会議の趣旨と重要性について説明を行う。

2. 自己紹介

出席者全員による自己紹介。

3. 障がい者自立センターの紹介

- ・当センター紹介動画を上映し、施設概要について説明
- ・施設内を案内し、居室・食堂・日中活動場所等の見学実施

4. 利用者の支援状況報告

(1)ヒヤリハット、事故報告

- ・ヒヤリハットについての説明と集約の目的と効果について説明
- ・昨年度の報告件数と主な対応策を報告

(2)退所者アフターフォロー紹介

- ・資料(ホームページ掲載)に基づき退所者アンケートの調査結果報告
- ・今後もアンケートの回収率を維持し、意見を職員間で共有、支援の質と利用者の満足度の向上に努めていく

5. 参加者からの意見、質疑応答

・地域活動協議会副会長(以下副会長)

1年の利用期間の間に支援は終わるのか？また、待機者はどれくらいいるのか。

⇒自立センター職員:大半の利用者の方は概ね終わられる。また障がい福祉制度上、利用期限は決められており、1年半までは延長可能。1年間で利用者は入れ替わるので、待機者はあまりおらず、利用までの待機期間は長くない。定員の9割ほど利用している。

・副会長:入所に際し、条件などあるのか。

⇒自立センター職員:高次脳機能障がいのある方と身体障がいのある方が利用対象である。

・家族:夫は自立センター利用前に特別養護老人ホームに入っていたが、もっとリハビリを受けることが出来たらと思い、行政機関に相談したところ、自立センターを紹介してもらった。

・副会長:急性期の病院は大体あわただしいものだが、この施設はゆったりしている印象。

⇒自立センター職員:急性期病棟はあくまで初期対応で、その後回復期病院へ移る。回復期病棟から地域に戻る際に訓練がもう少し必要という方に自立センターを利用してもらっている。

⇒自立センター職員:利用者は早く退所して地域に戻りたいと思っている方が多い印象である。

・教頭:障がいについての教育は人権教育の一環として大切だと思っている。多様性が大切とされており、障がいがあるなしにかかわらず、地域で生活していくという考えに基づいて対応していきたいと考えている。先ほどの見学で、小学校でいうと特別支援教育の自立活動というものに似ていると感じた。教員も自立活動の勉強をしているがセラピストほどの専門性には達していない点がある。学ばせてもらえたら

いいと思った。

- ・家族:夫が自立センターを利用することが出来てとても助かった。病院は退院期限があるが、自分にも仕事があったので対応できなかった。また、失語症があったので、入所して、家族が失語症について勉強できる期間を作ることができてよかった。

自立センター近くにあるスーパーでも地域の人によくしてもらっており、「すみません」というと、謝ることはないと言ってくれるので、涙が出るほど嬉しかった。自分自身は生家の近くに精神科病院があったので、昔、学校行事で見学に行き、一緒に卓球をしたことがある。それまであった心の垣根が下がった。また、スタンプラリーなどの催しなどもあって楽しい機会となった。

- ・自立センター職員:令和 7 年の 12 月号の府政だよりで自立センターのことが掲載されているので資料としてお渡ししている。併せてご覧いただきたい。

- ・利用者:自立センターの支援について、入所者の立場でいうと、さまざまな人がいる中、職員は一生懸命やってくれている。要望といわれれば、入所している利用者の状態はまちまちだが、もっと個別に合わせた支援をしてもらいたいと思っている。

- ・家族:自立センターに入所する際の最低条件は、どのようなものか。

- ・自立センター職員:車いすは自走ができること、食事を自分でとれること、また集団の施設になるので共同生活を送ることが出来るというのも条件である。人と一緒に生活するのはストレスでもあるが、それも含めて訓練であると考えている。

- ・自立センター職員:自立センターは障がい福祉サービスであるため、年齢制限があり、利用は 65 歳までとなっている。65 歳以上になると、介護保険の利用となる。

- ・自立センター職員:就労が目的の人もあるが、まずは生活の質を高めるということに重きを置いている人が増えている印象である。

6. 閉会の挨拶

- ・自立センター職員より、頂いた意見を今後の支援に活かし、引き続き地域との連携を深

めるべく協力の依頼をし、閉会。